

2001年度総会報告

2001年度 事業報告

1. 第7回研究大会の開催

2002年3月17日, 大阪体育大学

- ・シンポジウムテーマ:

「バレーボールは変わるか？」

- ・話題提供者: 山口隆文氏, 西田 守氏, 本間浩輔氏
- ・研究発表3件, コミュニケーションアゴラ3件

2. 研究集会の開催

第1回: 2001年7月7日, 早稲田大学喜久井町キャンパス, 参加者32名

テーマ「これからのバレーボールを考える
(現場からの提言)」

第2回: 2001年10月21日, 香川大学研究交流棟5F, 参加者42名

テーマ「これからのバレーボールを考える
(現場からの提言) - その2 -」

3. 機関誌「バレーボール研究」の発行および発行準備

2001年5月1日に3巻1号を発刊

2002年5月4巻1号の発刊にむけて現在準備中

4. 学会会報(ニュースレター)の発行

1回発行, NO8: 2001年9月10日

5. バレーボール関係研究文献データベースの整備と運用

バレーボール学会ホームページ上で公開

6. 会員名簿の発行

機関誌4巻1号の郵送時に同封配布予定

7. 諸会議の開催

幹事会

第1回: 2001年7月16日, 早稲田大学喜久井町キャンパス管理棟

第2回: 2001年10月12日, 香川大学研究交流棟5F会議室

第3回: 2002年1月25日, 静岡市「梅之家」

第4回: 2002年3月16日, 大阪体育大学 浪商クラブ
役員人事に関するWG: 2001年12月8日, 東京体育館 医務室

第7回総会: 2002年3月17日, 大阪体育大学 視聴覚室
企画委員会

第1回: 2001年5月27日, 城西大学 会議室

第2回: 2001年12月8日, 東京体育館 医務室

編集委員会

第1回: 2002年3月16日, 大阪体育大学

総務委員会

第1回: 2000年5月30日, 山梨大学

第2回: 2002年1月18日, 新宿ホテルサンルート

8. その他諸事業の実施

- ・学会ホームページの運用と整備

: <http://www.ccn.yamanashi.ac.jp/~endou/jsvr>

- ・役員用メーリングリストの運用

- ・会員研究用メーリングリストの構築と運用

2001年度収支決算中間報告

1. 収入の部

(円)

項目	金額		摘要
	予算額	決算額	
会費	600,000	696,000	@3,000円×231名
大会等参加費	300,000	25,000	第1回研究集会10名： 10,000円 第2回研究集会15名： 15,000円
広告費	200,000	150,000	機関誌掲載広告料2件
繰越金	2,030,295	2,030,295	2000年度より繰り越し
雑収入	10,000	85	預金利息
合計	3,140,295	2,901,380	

2. 支出の部

(円)

項目	金額		摘要
	予算額	決算額	
会議費	150,000	980	諸会議
事務費	150,000	26,040	会費銀行振替関連経費、 振込手数料、事務用品等
通信費	300,000	189,780	郵送費：185,530円 宅急便代：4,620円
大会費	700,000	157,086	第1回研究集会： 57,154円 第2回研究集会： 99,932円
印刷費	200,000	63,000	ニュースレター
機関誌発行費	700,000	486,150	「バレーボール研究3巻1号」発行
委員会経費	300,000	214,385	100,000円×2委員会(編集・企画) 総務：14,385円
調査研究費	200,000	0	
予備費	440,295	0	
次年度繰越金	0	1,763,949	2,901,380円 - 1,137,431円
合計	3,140,295	2,901,380	

以上御報告申し上げます。

2002年3月17日

バレーボール学会

総務委員会

委員長 遠藤俊郎 印略

証拠書類等を監査の結果、以上の報告に相違ない
ことを御報告いたします。

2002年3月17日

バレーボール学会

監事 原田智 印略

高橋和之 印略

総会議案

1) バレーボール学会会則改正

第16条として以下を追加する

(顧問)

第16条 本会に顧問をおくことができる。顧問は幹事会の
推薦により、総会において決定される。

2) 顧問の推薦

清川 勝行氏

1996～2001年度までバレーボール学会副会長として本会
の発展に大きく寄与されたので顧問として推薦する。

3) 2002～2003年度役員構成(別紙参照)

4) 2002年度事業計画(別紙参照)

5) 2002年度収支予算(別紙参照)

※上記の議案が承認されました。

バレーボール学会会則

1996年5月25日制定

1998年3月28日改正

1999年3月21日改正

2002年3月17日改正

(名称)

第1条 本会は、バレーボール学会(The Japanese
Society of Volleyball Research)と称する。

(目的及び事業)

第2条 本会は、バレーボールに関する科学的研究とその
発展に寄与するとともに、会員相互の情報交換、
研究協力を促進することによって文化としてのバ
レーボールの発展をはかり、これによってバレー
ボールの実践に資することを目的とする。第3条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業
を行う。

1. 研究大会の開催

2. 研究集会・講演会等の開催

3. 機関誌「バレーボール研究」、会報、会員名簿
の刊行、ならびにその他の出版

4. 研究の学際的、国際的交流

5. その他本会の目的に資する事業

(会員)

第4条 本会の会員は、本会の趣旨に賛同し、本会会費を
毎年度納入している者をいう。第5条 本会は特別会員の参加を認める。特別会員とは、
第4条で規定した会員以外の団体及び個人で、本
会の趣旨に賛同する者をいう。第6条 会員で2カ年会費を納入しない者は退会したもの
とみなす。

バレーボール学会 2002-2003年度役員構成

(敬称略、順不同)

(役員)

第7条 本会に次の役員を置く。

1. 会長 (1名)
2. 副会長 (若干名)
3. 幹事 (若干名)
4. 監事 (数名)

(役員を選任及び任期)

第8条 役員を選任は幹事会の議を経て、総会で決定する。

第9条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。

(役員の方務)

第10条 本会の役員は、次の方務を負う。

1. 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長事故ある時は、これを代行する。
3. 幹事は、幹事会を構成し、幹事長を選出する。また、会務を処理し、本会運営の責にあたる。
4. 監事は、本会の会務を監査する。

(会議)

第11条 本会の会議は、総会及び幹事会から構成される。

第12条 総会は、年1回会長がこれを召集し、次の事項を審議する。

1. 役員を選出
2. 事業報告及び収支決算
3. 事業計画及び収支予算
4. 会則、会費の改正
5. その他重要事項

(会計)

第13条 本会の経費は、次の収入によって支出する。

1. 会員の会費 (会費の額は幹事会の議を経て総会で決定される)
2. その他

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月末日までとする。

(事務局)

第15条 本会の事務局は、原則として幹事長が所属する機関に置く。

(顧問)

第16条 本会に顧問をおくことができる。顧問は幹事会の推薦により、総会において決定される。

(付則)

本会則は2002年3月17日より施行する。

1) 顧問：清川勝行

2) 会長：朽堀申二 (東京女子体育大学)

3) 副会長：川合武司 (順天堂大学)
島津大宣 (日本女子大学)

4) 幹事長：矢島忠明 (早稲田大学)

5) 監事：原田 智 (立正大学)
高橋和之 (日本女子体育大学)

6) 幹事：◎印は委員長、○印は副委員長を示す

(1) 編集委員会：10名

- | | |
|----------------|------------------|
| ◎柏森康雄 (大阪体育大学) | ○森田昭子 (東京女子体育大学) |
| ○河合 学 (静岡大学) | 都澤凡夫 (筑波大学) |
| 横沢民男 (国土館大学) | 浅井正仁 (大阪体育大学) |
| 古沢久雄 (鹿屋体育大学) | 今丸好一郎 (東京女子大学) |
| 高橋宏文 (東京学芸大学) | 水澤克子 (甲南大学) |

(2) 企画委員会：15名

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ◎明石正和 (城西大学) | ○山本章雄 (大阪府立女子大学) |
| ○黒川貞生 (女子美術大学) | ○篠村朋樹 (木更津工業高等専門学校) |
| 米沢利広 (福岡大学) | 小川 宏 (福島大学) |
| 藤生栄一郎 (筑波大学附属高校) | 橋本吉登 (藤沢沼南台病院) |
| 中瀬巳紀生 (高松工業高等専門学校) | 瀧聞久俊 (早稲田大学) |
| 中西康巳 (筑波大学) | 城 成人 (堺市立横塚台小学校) |
| 塚本正仁 (日本女子体育大学) | 西川友之 (富山大学) |
| 永谷 稔 (北海道浅井学園大学) | |

(3) 総務委員会：13名

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ◎遠藤俊郎 (山梨大学) | ○鈴木陽一 (早稲田大学高校) |
| ○後藤浩史 (愛知産業大学) | 亀ヶ谷純一 (明治学院大学) |
| 斉藤春枝 (山野美容芸術短期大学) | 藤島みち (夙川学院短期大学) |
| 河野貴美子 (東京都立晴海総合高校) | 廣 紀江 (学習院大学) |
| 河部誠一 (バレーボール・アンリミテッド) | 田中博史 (大東文化大学) |
| 三輪明彦 (中央大学付属高等学校) | 黒後 洋 (宇都宮大学) |
| 橋爪 裕 (大阪府立工業高等専門学校) | |

2002年度事業計画

1. 第8回研究大会の開催
2. 研究集会の開催
3. 機関誌（バレーボール研究：Journal of Volleyball Sciences：JVS）
第4巻の発行と第5巻の発行準備
4. 学会会報（ニュースレター）9号の発行
5. バレーボール関係研究文献データベースの整備と運用
6. 会員名簿の発行
7. 諸会議の開催
8. その他諸事業の実施

2002年度収支予算

1. 収入の部

(円)

会費金額	摘要
会費 600,000	@3,000円×200名
大会等参加費 300,000	研究集会：@1,000円×20名 (参加者概数) 研究大会：@4,000円×70名 (参加者概数)
広告費 200,000	機関誌掲載広告料
繰越金 1,763,949	2001年度より繰り越し
雑収入 10,000	預金利息等
合計 2,873,949	

2. 支出の部

(円)

会費金額	摘要
会議費 150,000	諸会議
事務費 150,000	会費銀行振替関連経費、 振込手数料、事務用品等
通信費 300,000	郵送費、宅急便代等
大会費 700,000	研究大会、研究集会等の開催経費
印刷費 200,000	ニュースレター1回、学会封筒、資料等の印刷
機関誌発行費 700,000	「バレーボール研究4巻1号」発行
委員会経費 300,000	100,000円×3委員会(編集・企画・総務)
調査研究費 300,000	
予備費 73,949	
次年度繰越金 0	
合計 2,873,949	

事務局だより

2002年3月17日、これまで毎年の恒例行事の様に矢島幹事長のお膝元早稲田大学において開催されてきた本学会の最大事業である総会・研究大会が初めて東京を離れ、関西の地大阪体育大学において開催されました。今回で7回目を数える研究大会は、清川実行委員会委員長、柏森庶務委員長、浅井事務局長等の尽力によって、大会のテーマの設定、学会員への広報、役員会のセッティングから大会当日の運営まで極めてスムーズに進行し、成功裡に終了することができました。

特にシンポジウムにおいては「バレーボールは変わるか？」というテーマのもと、3名のシンポジストを迎え活発な討論が行われました。本テーマは、「一貫指導」をキーワードとして、一貫指導に関してトップランナーである日本サッカー協会の取り組み(山口氏)、JOCからの研究指定を受け現在精力的に検討されている日本バレーボール協会の取り組み(西田氏)、さらには経営的視点から両協会の取り組みをどう捉えているのか?(本間氏)等の観点から話題提供を頂きました。

各カテゴリー世界大会にアナリスト5名ずつを派遣して、それらからのデータ分析をスタンダードとしたトップダウン方式での日本サッカー協会の一貫指導に対する取り組みにはさすがに目を見張るものがあり、スポーツナビゲーション本間氏をして「サッカーの一人勝ちですね!」とまで言わせました。

日本バレーボール協会としても財政的な問題ですぐにはサッカー協会のようなシステムの実現は無理なのでしょうが、このような状況だからこそ、バレーボール学会の英知を結集すれば有用な情報を現状でも提供し得るのではないかと、もしくは、バレーボール協会がバレーボール学会に委託して科学的情報や研究の提供を期することも考えられるところである、とはバレーボール学会の社会的使命の一端について言及した西田氏の言葉でした。

「バレーボールの実践に資する」という本学会の目的に鑑み、あながち看過できない御指摘と思われ、バレーボール学会の認知度の高揚にもつながるもので一考することも必要と思われました。

なお、第8回大会は2003年3月23日(日)、明治学院大学を会場として開催されます。またどんなシンポジウムになるかは是非御期待下さい。

さて、本学会では明石企画委員長を中心として年2回の研究集会を東京と地方で交互に開催し、会員の拡充と共に、研究大会よりもより実際の・身近なテーマを設定して、時にはセミナー的に開催しております。2002年度も第1回：明治学院大学(7月7日(日))、第2回：富山市(11月3日(日))と開催計画を検討中です。多くの会員の方々に御参加いただければ幸いです。

また、学会員の皆さんの学会活動の充実を図る意味から現在以下の2点に関して検討しております。

1点目は、機関誌「バレーボール研究」に掲載された論文の中から特に優れたものに「学会賞」「奨励賞」といった類の表彰をする制度の制定を検討しています。会員の皆様の積極的な投稿をお待ち申し上げます。

2点目は、これまでも「調査研究費」として収支予算項目に盛って参りましたが支出方法の検討が不十分だったため有効に活用するということまで至りませんでした。そこで、本年度は公募形式で会員から研究計画を募り、応募